

日韓市民ネットワーク・なごや

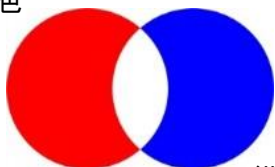
会報 No. 93
2023-10-1

한일 시민 네트워크 · 나고야

発行者：後藤 和晃
〒483-8037 愛知県江南市勝佐町東郷 238
TEL/FAX 0587-56-6788

Home Page: <http://home.m00.itscom.net/nikkan/index.html>

朱色



紺青

目次

1	事務局通信	後藤和晃
2	会員の便り	事務局
3	お知らせ	事務局
4	事務局後記	事務局



事務局通信 사무국 통신

事務局統括幹事 後藤和晃

1 50人で噛みしめた“日韓市民ネット”の25年

5月13日の夕刻、名古屋駅東のイタリア料理店ゼンゼロに日韓の各地から会員、協力者、合わせて50名が集い、会の創立25周年を祝いました。

会が産声をあげたのは1998年(平成10年)2月7日、名古屋国際センターの一室でした。当初の会員数39人で全員がそれまでの1年間、国際センターで韓国人初の民間大使イ・サンフン氏が主催した韓国理解講座を受講していました。39人の3人に1人は、戦前の朝鮮や満州(中国東北部)で幼少期を送り、韓国 朝鮮人の友達と遊んだ記憶のある人たちでした。



左壁際にイム親子とイ顧問



祝辞を述べる車副総領事

あれから、25年、会結成当時に参加していた大陸からの引揚者は90%が来世に行き、25周年の集いに出席されたのは 旧満州の大連近くから帰国した長澤進さんだけでした。さて、こうして記事を書いている事務局の後藤も年齢、すでに83.5歳と、日本人男性の平均寿命を2年もオーバーしており、5年後の会の“30年の集い”まで果たして存命しているかどうか分かりません。

そこで、今回の会報では、25周年に出席していた多彩な人たちの名前を、なるべく記録しておき、この人たちが(万一、会がなくなったとしても)できる限り、連絡を取りあい、日韓の民間交流を少しでも果たせるようにしたいと思います。では当日の出席者の概要です。

韓国からは、まず大田の中都日報の記者イム・ピョンアン氏が 小学生の息子チュオン君を連れ出席されました。また会の顧問のイ・サンフン氏の友人である仁川の女性社長 グレース・キョンさんの華やかな姿もありました。名古屋の韓国総領事館からも 副総領事の車雄基氏と領事の金承煥氏のお二人が出席され 挨拶を頂きました。



アリランの演奏

日本側の出席者は 協力者の皆さんから紹介します。日韓経済文化交流協会の堀江俊通会長、一宮日韓親善協会副会長の小島馨氏、民団一宮支団長の石春浩氏、愛知県議会議員の高木ひろし氏、淑徳大学のチョ・スルソプ教授などなどの皆さんが会の 25 年に賛辞を寄せていただきました。

次に会員(元会員を含め)の出席者を一部だけ紹介しておきます。

まず大阪から、はるばる足を運んできたのが会発足当時、淑徳大学の学生で、今は大韓貿易投資振興公社(KOTORA) の課長として働いている大石好彦氏です。(会員の便りの投稿を載せてあります)

そして、京都からは、和服の店を商いながら会のグループの京都や奈良への旅行に常に同行された金岡えつ子さん、それに、京都市立美術大学を舞台に韓国大田と日本との民間交流に努力されているペ・サンスン氏の二人が忙しい中、出席いただきました。

また、会の設立から、日韓の民間交流の実践に大きな功績を挙げながら、事情があつて、今は会員ではない二人も出席し、会場を盛り上げてもらいました。一人は、かなり前に退会した人ですが「会の会報を編集してあげると一度は約束したんだから、会員はやめても会報の編集だけは続けるよ!」という小牧市の中川修介さん。

もう一人は会の中核メンバーだったものの、日本の会社を退職した際、その有能さを東南アジアの会社に見込まれ、現地で永年働くことになり、やむなく退会していた野村哲さんでした。

(以上、感謝の気持ちで名前を上げさせてもらいました。もちろん、他の皆さんにも深く感謝しています)

当日は、多くの参加者にご挨拶を頂きましたが、今を去る 26 年前に、名古屋市の国際センターで韓国人として初めて、民間大使になり、韓国理解講座を一年実施して、私たちの会の立ち上げのきっかけを作った顧問のイ・サンフンさんの挨拶を次に紹介させていただきます。



創会メンバー達

こんばんは！イ・サンフンです。「日韓市民ネットワーク・なごや」25周年、おめでとうございます。25年前、名古屋国際センターの「韓国理解講座」8回シリーズに参加した40名ほどの皆様の声を集めて始まったこの会。

草の根から始まる日韓市民交流を目指してから25年が経ちましたね。お疲れさまでしたとお礼を申し上げます。ここまで色んな行事を続けとは誰もが想像したでしょうか。会員の並みならぬ努力と日韓の交流に対する強い思いがあったからできたことだと思います。統括幹事の後藤和晃さんをはじめ皆様には本当に頭が下がります。15年間も続いた韓国の高校生・大学生のホームステイ受け入れ、京都・奈良への旅行のプレゼント、日本文化を身近く感じるようにしてくれました。参加した韓国の若者が日本を好きになり、日本に留学するきっかけを作ってくれましたね、ありがとうございます。

20年以上続いている韓国に関わる様々な講座、コロナの厳しい環境の中でも途切れることなく続いていますね。今年も西谷先生の高句麗・新羅・百済・日本との関わりについて、4回シリーズの講座を開きましたね。

コロナ直前に北朝鮮にある高句麗の壁画を見に行ったり、八曾キャンプ場での「韓国留学生のもてなし会」では、中川さんが自ら船をだし、魚を釣りごちそうしてくれましたね。BBQ や登山を通し、韓国若者との交流を深めました。

近年、会員様の高齢化が進み、後藤統括幹事も傘寿を超え、会を継続していくことに身・心の揺れもあったと思います。よく続けて下さいました。ありがとうございます。

最後に、この会を支えて下さった会員の皆様方にお礼を申し上げます。

これからは、もっと若い世代へと「日韓市民ネットワーク・なごや」の交流の場が広がって行くことを願いながらお祝いのご挨拶とさせていただきます。

イ・サンフンさんは、会の 25 年を短く、要領よく紹介していただきました。

ありがとうございました！

2 顧問イ・サンフン氏が退職し、新会社を設立

前項の“会の25周年”の際、挨拶されたイ・サンフン(李尚勳)顧問は、この6月で、韓国の財閥系の大宇ジャパンの名古屋支社を定年退職し、資本金1000万円の新会社を名古屋国際センターの18階に設立されたので紹介しておきます。



新会社を祝う会

はじめ、工具やネジやプラグなどに特殊なメッキを行って耐久力を一気に引き上げるプラズマコーティングをする機械の販売など、多岐にわたっています。

社員も韓国大邱出身の青年、キム君を採用し、2人で楽しく忙しく過ごしているそうです。

そこで、25年前に日韓市民ネットを始めたメンバー数人に声をかけ、イ・サンフン氏の新会社設立を祝う会を9月3日(日)、名古屋駅西の韓国料理屋で開きました。

集まった会員、元会員は6名でイ氏含めて7人で美味しい韓国料理に舌鼓を打ちながら、新会社の設立を祝いました。なお、写真には6人しか写っていませんが、元会員の野村哲さんが、この後駆けつけていただきました。感謝です。

イ・サンフン氏は、ご存知のように大宇ジャパン名古屋支社の幹部として、支社の成績を何倍にも伸ばしてきた人だけに、60歳という定年にはなったものの、会社はOB社員として残ってほしいと頼んだと言います。

しかし、サンフン氏は若い頃から「独立して自分の会社を作りたい」との夢を持ち続けていたため、思い切って退職したのだそうです。そして早々に立ち上げた会社の名はLeben株式会社といいます。業務内容は、イ氏が得意とする自動車部品の輸出入を



新会社で会議中の二人



회원의 소식 会員の便り

今回は、会が発足した当時は大学生で、韓国からの学生交流団を迎えたり、こちらからも韓国に出かけて多彩な交流を体験したお二人の便りを紹介します。

1 育児に奮闘しています 石田樹梨

日韓市民ネットワークの皆様、こんにちは。私は大学生の時にこの団体と出会い、たくさんのイベントに参加しました。イベントの参加などを通じて様々な人と交流をしたことが懐かしく、今でもよく思い出します。



赤ちゃんはどっちに似てる？

私は名古屋を離れ、東京で暮らして4年が経ちます。東京に来てからは韓国語の翻訳の仕事をしています。昨年9月には男の子を出産しました。コロナ禍で立ち会い出産や面会もできず、少し不安な中での出産でしたが、息子も元気に育ち、もうすぐ1歳を迎えます。息子は日本と韓国のハーフということもあり、今年の5月には韓国へ行き、初めて韓国の家族に会うことができました。私自身は久々の韓国訪問でしたが、赤ちゃんがいるということもあり、今までとは違った韓国人の優しさに触れることができました。例えば、赤ちゃんと一緒にいると話しかけてくれたり、子供をあやしてくれたりする人が多いということです。また、赤ちゃんと一緒にいることで荷物が多くて不便なことが多かったのですが、その度に周りには韓国人が荷物を持ってくれたり、運んでくれたりしました。

日本でも優しい人はいると思いますが、韓国には優しい人が多いと改めて感じました。息子も大きくなったら、日本と韓国の良いところをたくさん感じてほしいと思っています。

2 『あつという間に四半世紀 ～韓国は公私ともにわたしのパートナー～』

大石好彦 KOTORA課長

「日韓市民ネットワークなごや」発足 25 周年、改めておめでとうございます。今更感は否めませんが、別に減るものでもありませんし、おめでとうはどれだけ言ってもいいものですよね。

さて、日韓市民ネットワークなごやが 25 周年という事は、わたくしと韓国との良縁もそれくらいになるんだなあと実に感慨深いものが有ります。20 世紀もあと数年というあの頃、わたくしは春日井の実家から長久手のキャンパスに通う大学生でした。とりあえず「大卒」という肩書くらいは…とこれといった目標も持たず社会に出るのを先送りにしたいがためにスタートした大学生生活でした(両親には申し訳ないと思っています)が、大学進学から数か月後にとある出来事がきっかけで韓国人留学生と知り合いになり、韓国という国を知る機会に恵まれました。知れば知るほど面白い韓国語にハマリ、大学の研修プログラムのおかげで実際に韓国に赴き、現地の空気や韓国人の情愛に触れ、のめりこんだ事で交換留学も経験し日本には分からない様々なことを吸収できました。

この交換留学の後に、大学の先輩の勧めもあり日韓市民ネットワークなごやに学生会員として合流、韓国からの研修団と交流したり、日本からの学生研修団の一員として訪韓したりと日本に居ながらにしていろいろと学ばせていただきました。(女子学生のおうちにホームステイするという面白い経験もこの頃の事でした)

しかし学部卒業後の 2 度目の留学(2001 年～)を機に、日韓市民ネットワークなごやとの交流は一時途切れてしまったものの、韓国との縁は失われず、2002 年の日韓ワールドカップの熱気を韓国で感じたり、現地で外国人タレントの真似事をしてみたり、元祖韓流ブームの立役者 Y 様に『あいうえお』を教えたり、いい事ばかりだったとは言えませんが大変有意義な青春時代を過ごさせてもらいました。(留学と言いながら、学業はさっぱりで結果を残すことはできませんでした。〈最終学歴:S 大大学院修士課程修了〉)

学業が鳴かず飛ばずで、ビザの延長申請にも無理が生じて、これは年貢の納め時かと韓国滞在をあきらめかけた頃、日本から一本の電話がかかってきました。

その内容とは「韓国の某機関の名古屋拠点から期間限定の契約職員として働かせてくれる」というものでした。学究熱も冷めきってしまっていたわたくしは二つ返事でこれに応じて日本に帰国、2005 年の愛・地球博の韓国パビリオンで初の社会人生活を経験しました。契約期間終了後は約半年のブランクを経て前述の某機関の大阪拠点で働かせてもらう事になり、現在に至っています。

現在のわたくしのお仕事は、大韓貿易投資振興公社(KOTRA)というところで、日本企業の韓国拠点進出を支援するといったもので、韓国に拠点を作る際の手順の案内から、進出後の相談窓口として活動すると同時に韓国の自治体のビジネス環境プロモーションのお手伝いや情報発信を行っています。

※KOTRA 自体の業務は上記以外にも韓国企業の海外販路開拓支援、韓国人材の海外就業支援など多岐に亘ります。おかげで韓国の方たちに囲まれ、韓国語を忘れるどころか毎日勉強させてもらっています。趣味と実益を兼ねた大変ありがたい職場です。

日韓市民ネットワークなごやの本懐ともいえる市民交流は出来ておりませんが、ビジネス於ける日韓交流活性化への寄与を通して、個々人の相互理解につながっていけばと思っています。

(実際に仕事で出会った方々の中にはご家族が韓流ファンだとか韓国に何度も訪れたなどといった話で盛り上がり、良好な人間関係の構築に役立っています)

現在は、地元愛知を離れ大阪を主戦場としてはいますが、それでも日韓市民ネットワークなごやの一員として及ばずながら、今後も活動を続けていけたらと思っています。

フォーラムで講演する大石氏

会議を主催する大石氏 (左側奥)



1. 邑翠文化フォーラム

～4 回講座“朝鮮半島と日本との交流史”終え、単発講座へ～

日韓市民ネットワークが協力している邑翠文化フォーラムの第1回シリーズ講座“こうして人々は波濤を超えた！”は、日本を代表する考古学者、西谷正先生を講師に迎えて、5月から8月まで月に1回の講座を実施しました。

講座の内容は、4世紀から7世紀頃の古代日本に半島の国家、高句麗、百濟、新羅、そして伽耶の諸国から、どのような文化が渡来人と共に滔々と流れ込んできたのかを明らかにすると共に、倭人たちも多彩な目的を持って、半島に渡っていたことまで伝えるものでした。講座は 前評判が高く、60人程度の部屋では入りきらないと、名古屋国際センターの別棟の大ホールを借り上げ実施したところ 4回とも100人から120人もの受講生が詰めかけ、西谷先生も満足そうでした。

次回講座は単発で韓国からの講師を迎えて行います。日時は10月22日(日)の午後2時から、場所は、これまでと同様、名古屋国際センターの別棟大ホールです。参加希望の方は、フォーラムのPRビラのQRコードから手続きしてください。(日韓市民ネットの事務局にお問い合わせ頂いても当方では受付できませんので了解ください)



朝鮮王朝第4代の国王世宗は、1443年に、朝鮮語表現に相応しい固有の文字体系：ハングルを創製し、「訓民正音：民を訓おしえる正しい音」と呼んだ。それまで使用されてきた文字が中国語表記の漢字が借用されていて、朝鮮の民草が学び、用いることは容易でなかったからである。これに当たる世宗の思いや世情について、当分野で最も権威ある専門家として知られる김슬옹(キム・スロン)博士に聞く。

易しい文字、ハングルを制定した世宗大王の功績についてです
講座の内容は朝鮮王朝時代に庶民でも理解できる

YouSui Culture Forum YouSui文化フォーラム

世宗、ハングルで世の中を変える

2023.10.22(日) 13:20開場 14:00開演 (16:00終了予定)

【会場】名古屋国際センター大ホール

【入場料】無料(事前登録制※定員120名ほど)

※日本語の通訳があります。

QRコードにて、ご参加登録をお願いします。
10月20日(金)締切。

【主催】邑翠文化フォーラム
【協賛】日本韓国語教育学会中部地域研究会
【お問合せ】yousuicf@gmail.com
【後援】邑翠カルチャーチャリティ YCC

講師：김슬옹 (キム・スロン)

【講師プロフィール】●訓民正音学博士 (延世大学国語国文学科大学院) ●国語教育学博士 (東国大学国語教育学科大学院) ●文学博士・ハングル歴史博士 (祥明大学国語国文学科大学院) ●世宗国語文化院院長 ●世宗ハングル研究所所長 ●世宗大王記念事業会専門委員など

【主要論議】●世宗大王と訓民正音学 ●28字で成しとげた文字革命「訓民正音」●朝鮮時代の訓民正音発達史 ●歴史上に輝くハングル28大事件 ●訓民正音解前本立休講義本など多数

韓流ハングルの根、世界記憶遺産
훈민정음 해례본
訓民正音解前本

10.19(土) 13:00開場 13:30開演 愛知淑徳大学 交流文化学部 コリアン・エクスパート講義会

【会場】愛知淑徳大学豊が丘キャンパス講義室
【入場料】無料 ※前予約不要
【主催】愛知淑徳大学 交流文化学部 【お問合せ】ggachi@anu.aac.jp

2 地球規模で考え、地域で生きる活動を！！

～ ワールド コラボに出展します ～

「一人ひとりの力は世界の未来を拓く」このテーマで、WCF2023(ワールド・コラボ・フェスタ)が、今年は20回目の節目の開催となります。私たち「日韓市民ネットワーク・なごや」は昨年につき今年も参加します。

WCFはこの地域で国際交流、国際協力、多文化共生・SDGsの活動を進めている担い手が一堂に集まり、持続可能な地域社会の実現をめざしてみんなで「地球」や「地域」のことを楽しく考えるお祭りです。今年は、10月14日(土)、15日(日)【雨天決行】名古屋市栄のオアシス21 銀河の広場で開催されます。

主催者 WCF 実行委員会の来場予定者数は6万人ほどです。ワールドステージでは地球規模の課題や多文化共生をテーマとしたトークイベント、世界各国の歌や踊り、楽器演奏があります。また、コラボ広場では、国際交流、国際協力、多文化共生・SDGsに携わる団体等の活動紹介ブース出展を特設テントで実施します。



かつての出展風景 (石田氏と鈴木氏)

我々の団体は、「韓国を少しディープに知ろう」と韓国全体の紹介と合わせ、大邱のスソンモと水崎林太郎翁の紹介。解放前の大田の鉄道建設や官舎に関わる日本人の思いと史跡の紹介。当時を再評価する動きと「日韓市民ネットワーク・なごや」会員の関りなどについての紹介をしたいと考えています。

また、クイズコーナーでは、ハングルを創立した人の紹介と合わせて、ハングル

であなたの名前を書いたらとクイズに応募した人と、一緒にネームプレイとを作ることも考えています。

戦後最悪と言われた日韓関係は、今新しいフェーズに入っています。世界での両国の位相はこの30年で大きく変わりました。ニンニクくさいと嫌われたキムチは、今や日本の漬物の中でも販売量はトップになっています。加害者意識で、贖罪のように日本批判をしていた日本の旧世代、被害者意識から悪いのはすべて日本と決めつけていた韓国の旧世代とは違う、おいしいものはおいしい、素敵なものは素敵と素のまま受け入れる若い世代が日韓双方に広がっていると思います。

固定観念にとらわれない、人類史になかで日韓を考え、理解を深める機会になればと思います。

「Think globally act locally」



事務局後記

사무국후기

通信の欄で書いた通り、私たちの会が25周年、イ・サンフン顧問が60才の定年退職で新会社設立、歳月の経過の疾さには驚くばかりです。

25周年、の集いでも申し上げたように会員の多くが、あの世に去り、事務局メンバーも高齢化、韓国からの交流団を迎える事は、資金面とホームステイの両面で極度に難しくなっています。とはいえ、日韓双方に多彩な人脈を繋いだきた財産を糧に、今後は、民間交流を望む人たちへの支援を行っていきたいと考えています。

編集 中川修介 (非会員)